

ヨハネの証言は、こうである。ユダヤ人たちが祭司とレビ人をエルサレムからヨハネのものに遣わして、「あなたはどなたですか。」と尋ねさせた。彼は告白して否まず、「私はキリストではありません。」と言明した。また、彼らは聞いた。「では、いったい何ですか。あなたはエリヤですか。」彼は言った。「そうではありません。」「あなたはあの預言者ですか。」彼は答えた。「違います。」 1:19-21

1. ヨハネのミニストリーはかなり評判になっていたので調査のためエルサレムから専門家が派遣された。これは繁栄しているカトリック教会を視察するためにバチカンから視察団が送られるようなものである。
2. バプテスマのヨハネはメシアなのかエリヤなのか預言者なのか、という質問を受けた。ユダヤの人々が多く集まったのはこれが最初ではない。この 160 年前にもマカバイ戦争と呼ばれるユダヤ人を改宗させようとするセレウコス朝の圧制に対する暴動が起きている。
3. ユダヤ人にとってのメシアとはローマの圧制から解放し治めてくれるダビデの家系から来る王のことであった。エリヤとはマラキ 4:5 の成就で終末の日の先駆者、預言者とは教会制度を建て直し人々を解放するモーセのような人物を指した（申命記 18:15,18）。

そこで、彼らは言った。「あなたはだれですか。私たちが遣わした人々に返事をしたいのですが、あなたは自分を何だと言われるのですか。」彼は言った。「私は、預言者イザヤが言ったように『主の道をまっすぐにせよ。』と荒野で叫んでいる者の声です。」 1:22-23

1. あなたは「あなたはだれか」と聞かれたらどう答えるだろうか？ バプテスマのヨハネがこの質問を受けたのは興味深い。まず彼は大祭司ザカリヤの息子である。ザカリヤは至聖所で祭司の務めをしている時にビジョンを与えられた（アモス 8:11 の霊的ききんの時期）。次にヨハネは当時最も注目されていたミニストリーを行っていたにもかかわらず、宗教指導者たちは彼が何者なのかわからなかった。
2. 宗教指導者たちがバプテスマのヨハネのことを知らなかったということはヨハネの謙遜さを表している。彼はもっと名を上げることはできたはずだが、私たちが彼の名を知ることになったのは主に福音書の記事による（4 福音書すべてに彼についての記述がある）。イエス様も彼は女から生まれた者の中で最もすぐれた人だとおっしゃった（マタイ 11:11）。
3. ヨハネのメッセージは実にシンプルで、私たちの曲がった道から戻り主の道を整えよ、とのイザヤからの引用をしている。これは悔い改めのメッセージである。そして彼の応答はまたも謙遜さと信頼性を示すものである。彼は著名な指導者たちによる訪問を誇示したりすることなく、ただこれから来る方のことについてのみ語っている。彼が心を向けているのはイエスに対してのみである。

彼らは、パリサイ人の中から遣わされたのであった。彼らはまた尋ねて言った。「キリストでもなく、エリヤでもなく、またあの預言者でもないなら、なぜ、あなたはバプテスマを授けているのですか。」ヨハネは答えて言った。「私は水でバプテスマを授けているが、あなたがたの中に、あなたがたの知らない方が立っておられます。その方は私のあとから来られる方で、私はその方のくつのひもを解く値うちもありません。」この事があったのは、ヨルダンの向こう岸のベタニヤであって、ヨハネはそこでバプテスマを授けていた。 1:24-28

1. ヨハネは重要な人物には見えないのにバプテスマを授けていたのでパリサイ派の宗教指導者たちは腹を立てた。バプテスマは異邦人がユダヤ教に改宗する際に行なわれるものだったが、ヨハネは異邦人ではなくユダヤ人にバプテスマを授けていた。ヨハネのバプテスマは悔い改めのしるしで、シンプルに見えたので多くの人々が罪を告白し、バプテスマを授けてもらうためにやってきた。ヨハネはこのバプテスマは人々の心を整えるためのものだということを明らかにしている。
2. ヨハネのミニストリーが知られるようになっても、彼は自分の役割と後から来られる方の偉大さを認識していた。イエス様は彼よりも若い実の従兄弟であったが、その偉大さを決して見失うことはなかった。
3. ヨハネがヨルダン川でバプテスマを授けていたことは、イスラエルの民がエジプトから解放されて約束の地に入る前に渡った同じヨルダン川であったことを考えると非常に意味がある。興味深いことにイスラエルの民を約束の地に導き入れたのはヨシュアで、今イエス様が新たな約束の地にイスラエルの民を導こうとしている。当時と同じく今でも約束の地には巨人がたくさんいる。私たちは神の武具を身に付け、霊の戦いにいどまなければならない（私たちの格闘は血肉に対するものではないーエペソ 6:10-18）。